

	北見工業大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	工学部（第1年次:410 第3年次:10） 大学院工学研究科（M:112 D:8）
沿 革	昭和35（1960）年 北見工業短期大学創立 昭和41（1966）年 北見工業大学設置 昭和59（1984）年 大学院工学研究科修士課程設置 平成9（1997）年 大学院工学研究科修士課程を改組し、博士前期課程・博士後期課程を設置
設置目的等	<p>昭和35年、現在の北見工業大学の前身である北見工業短期大学は、工業に関する実務的な専門教育を授け、地方産業の発展と興隆に寄与し得る学力と識見を兼ね備えた技術者を育成することを目的として設置された。</p> <p>昭和41年、我が国における産業開発、中でも工業開発の発展という社会的要請に応え、特に、北海道の更なる開発振興を担う工業技術者等を育成することを目的に、北見工業短期大学を廃止して、北見工業大学が設置された。</p> <p>昭和59年、科学技術の著しい進展と産業社会、工業社会の多様化、高度化に伴い、幅広い視野を持ち、高度な専門知識と実践的能力、創造性とを身につけた技術者並びに研究者の養成を目的に、大学院工学研究科修士課程が設置された。</p> <p>平成9年、学生の進学希望に応えるとともに、学術研究のより一層の活性化と高度化を図ることを目的に、大学院工学研究科修士課程を改組し、博士前期課程・博士後期課程が設置された。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p>北見工業大学は、「人を育て科学技術を広め地域に輝き未来を拓く」を理念に掲げ、自然と調和した科学技術の発展と国際社会への対応を念頭においた、技術開発を行い得る人材を養成し、これによって地域社会はもとより、国家・国際社会の安全と平和及び文化の進展に貢献する大学を目指し、教育、研究、社会貢献に取り組んでおり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <p>○ 「確実な基礎学力を基盤とし、それに加えて専門分野に偏らない広い視野を備えた専門技術者を養成する」という教育方針のもと、</p>

開学以来1万6千人を超える工学系人材を社会に輩出してきた実績を生かし、産業界で活躍できる幅広い視野を持った技術者育成の役割を果たす。修士課程においては、学士課程で修得した基礎知識を基に専門知識・技術を学ばせるとともに、分野横断的な教育を行うことで、応用開発にも役立つ実践的な専門技術者を養成する。博士課程においては、学生が所属する専門分野以外の教員も指導教員グループに配置するなどして、様々な社会分野に貢献できる高度な専門技術者を養成する。

- 学生の学修成果や生活状況等の情報を集約した電子ポートフォリオをはじめとするIT教育支援システムと、定期的な面談により学生の修学状況などを把握する個別担任制の連携による多様な学生へのきめ細かな学生支援や、他大学と連携した産学連携教育など、特色ある教育改革を進めてきた実績を生かしつつ、工学教育の国際的な水準を踏まえ、グローバルに活躍できる工学系人材を育成する学部・大学院教育を目指して、不断の改善・充実を図る。
- 寒冷地域に立地する工科系単科大学として、工学技術をもって地域社会の発展に貢献できる研究開発を推進する。特に、エネルギー工学では、表層型ガスハイドレートに関する基礎的研究及び再生可能エネルギーを活用した寒冷地域に適合する分散型エネルギー利用システムの構築に関する研究を推進し、環境工学では、東北海道の四つの国立公園をはじめとする、豊かな自然環境の保全に向けた研究に取り組み、環境に及ぼす自国・他国の産業活動の影響に関する調査研究を継続的に実施するとともに、自然と調和した地域産業活動の発展に貢献することを目指した、技術開発に関する研究を推進する。
- オホーツク地域に立地する大学として、地域の初等中等教育諸学校教諭の理科実習指導能力向上に向けた研修、子ども達を対象としたものづくり体験学習や科学実験プログラムの実施に加え、自治体の政策立案への参画、公開講座・講習会の実施や豪雪災害に関する知見の情報発信などの取組実績を生かし、子ども達の理科離れ対応や基礎学力向上などの社会的要請に取り組んでいくとともに、地域における知の拠点としての役割を一層果たしていく。
- 地域資源を生かした食品加工に意欲的に取り組み、産業化を目指す企業等の社会人を対象とした6次産業人材創出プランや、技術士を目指す技術者を支援する技術士養成支援講座などの取組実績を生

	かし、工学系専門知識の社会人学び直しを推進する。
--	--------------------------